

国語

金田 一 清子

子どもから出発する授業づくり

今回は、まず、「絵本「ぶたばあちゃん」〜関わりあいながら読む〜」特別支援学級五年生の実践報告の内容を紹介したいと思います。教材選択がいのちと絵本「ぶたばあちゃん」を取り上げ、知的固定の五年生と読み会った心温まる実践報告でした。人が老いて死んでいくことをみつめる感動的な物語を、一読総合法の読みで取り組んだそうです。

子どもたちは、一つ一つの絵に興味を示し、次々と疑問を提示。その疑問をもとに話し合うなど、子どもから出発する授業をめざしました。「ここを劇化したい」と言う子どもたちの願いを生かして、ぶたばあちゃん、孫娘、読む人と分担し劇遊びをしながら進めたところ、子どもたちの反応もよく、分かりやすかったそうです。子どもたちは、絵の中にいろいろなものを発見しながら、楽しく読み進めたそうです。

協議では、「感動した。重い問題を授業者が軽やかに扱っていてよい。特別支援学級では、教材の制限がなく教材の選択の自由があるのがすばらしい。子ども中心に考えていて、劇遊びでは成り切って楽しんでいる。読み取ったことをクイズ形式で共有するような学習活動を子どもが提案し、それに取り組むなど柔軟な姿勢がよい。人が老いて死んでいくことについて、子どもたちはどうとらえているのか。身近な人の死をどうとらえているのか。この物語を全部読んだ後、考えた事をまとめさせてもよかったと思う」など大いに盛り上がりました。

みんなで絵本を読み合おう

絵本「ひとのなみだ」をみんなで読み合った回もあります。作者は内田麟太郎。「ともだちや」などで有名です。「戦争なんて自分と関係ないし…」とあきらめて

いる主人公が、「本当にそれでいいのか」と思い悩むさまが描かれています。一人ひとりがこの「戦争と平和」という問題に深く考えさせられました。「これは是非、子どもたちと読み合ってみたい作品。いろいろな考えや思いを出し合いたい」との声が出されました。クラスで読み聞かせをした部員からのメッセージを紹介。子どもたちが「今のアメリカの大統領のこと」「ウクライナとロシアとの戦争のこと」：「これからわたしたちも戦争に巻き込まれるかも知れない」という思いを口々に語り始めたことが印象に残っています、とのこと。

皆さんも手に取って読んでいただきたい本です。現場からの実践を大切にして、いる国語部会に是非ご参加下さい。

